

支払承認請求書の記載例

元金るとき

書式No.310

注意 1. ※印の箇所は、いずれかを○で囲むこと。
2. 滅紛失の事由欄は、滅紛失した経緯をできるだけ具体的に記載すること。なお、既に支払承認請求をしたものと事由が同じときは、記載を省略することができる。

[⑤]

※**証券** 滅紛失 利札 に対する元(利)金支払承認請求書

(日付) 4.7.25

日本銀行 御中

住所 東京都〇〇市△△町1-1 印

氏名 甲野太郎 (甲野)

② (担保の種類) 振込国債

下記 **証券** 利札 を滅紛失しましたので所要額の 振込国債 を担保に供しますからその元(利)金の支払を承認して下さい。

※ **元金** 利子 ¥5,000,000円

国債名称	記号	券面種類	番号	支払期日	※証券枚数 利札
利付国庫債券 (20年)	第56回	1,000,000 <small>円券</small>	012345 ~ 012349	34.6.20	5

滅紛失の事由

③ 上記国債証券は、平成14年6月に〇〇証券会社で購入後、印章・預金証書等の貴重品と一緒に袋に入れ、戸棚に保管していたが、昨年5月に家屋改築準備のため家屋内を整理した際紛失に気づき、心当りを探したが発見できません。紛失判明後不用品を焼却した場所を調べたところ、国債証券と一緒に保管していた印章の燃えがらが見つかったので、前記家屋内整理の混雑に取りまぎれ他の不用品とともに焼却したものである。

④ 受付印 (店名・日付)
4.7.25
日本銀行〇〇代理店

- ① いずれかを○で囲む。
- ② 担保の種類は、現金・無記名国債・振込国債・登録国債の別を記載する。
 - 既に提供してある担保を共通使用するときは、「所要額の(担保の種類)を担保に供しますから」の個所を「〇年〇月〇日提供しました(担保の種類)を共通担保としますから」と記載する。
 - 担保の提供に代え保証人を立てるときは、「所要額の(担保の種類)を担保に供しますから」の個所を「(住所・名称)を保証人に立てますから」と記載する。
- ③ 滅紛失した経緯をできるだけ具体的に記載する。
 - 証券と利札について承認の請求をするときは、いずれか一方の請求書に記載すればよい。また、既に承認の請求をしたものと事由が同じときは、記載を省略してよい。
 - この欄に記載できないときは別紙に記載し、これを請求書に添付することとしてよい。
- ④ 代理店名・受付日付を表示する。
- ⑤ けん欠利札納付金を納めた利札のときは、「(けん欠利札納付金納付分)」と記載する。
 - * 第三者による担保提供の場合は、「住所・氏名」欄の下部に担保提供者の住所・氏名(名称)を付記する。